

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト み や ぎ

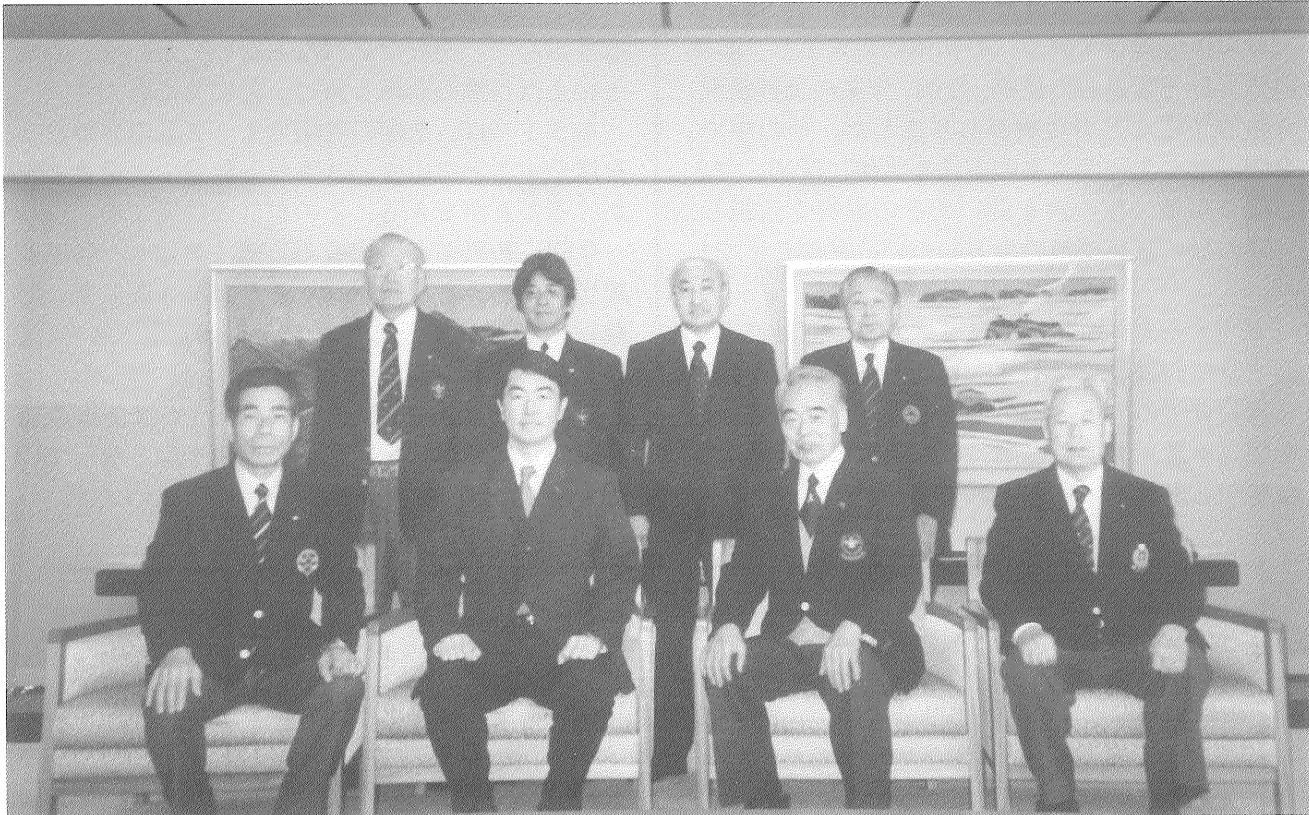
No.9

発行

日本ボーイスカウト宮城県連盟

発行日

平成18年2月28日



(宮城県庁貴賓室にて記念撮影)

県連盟役員、村井宮城県知事を表敬訪問

— 連盟長就任を要請

さる1月18日、郷家照夫副連盟長、千田好男理事長、芳賀文蔵副理事長らの県連各役員は、宮城県庁に赴き村井嘉浩知事を表敬訪問いたしました。

その際、千田理事長からスカウト運動の概要を、郷家副連盟長からはジャンボリーのこと等をお話し、青少年健全育成のため連盟長をお引き受けいただきたい旨お願いしたところ、快く承諾をいただきました。

これは12月4日開催の第6回理事会におい

て、浅野史郎連盟長が宮城県知事を退任されたことに伴う後任連盟長に、村井知事を推戴することについて、県連盟規約第31条により発議し、県連年次総会で提案することが満場一致で承認されたに基づいたものです。

推戴式は4月30日に仙台市内で開催する年次県連総会を予定しております。

連盟長推戴までの間は、郷家副連盟長が連盟長代行を務めます。

平成 17 年度 全国組織拡充セミナー参加報告

宮城県連盟組織拡張副委員長 菊池英喜

年明けの1月14日・15日の2日間にわたり、東京・三鷹のボイスカウト会館において全国26都府県連盟の組織拡充担当者30名により「全国組織拡充セミナー」が開催されました。

宮城県連盟を代表して参加してまいりました
ので、所感等を報告します。

開会にあたり、スカウト運動推進委員会委員長（日本連盟理事・岩手）の和田伸幸氏より、日本連盟方針と委員会の任務、役割、作業の進捗状況、今後の予定などの説明がありました。その中で、今回のセミナーは従来の方法を大幅に改め、できる限り現地の生の声を聞いてその提案を重視し、忌憚のない意見交換の場としたい、とのことででした。

セミナー全体のテーマは「スカウト運動推進に関する検討課題」であり、6つの重要項目が掲げられ、3つの分科会に分かれ9時間（2日間）を超える意見交換、提案、日本連盟に対する改善要望などが真剣に協議されました。

そこでは、特にボイスカウト運動、日本連盟の存続に対する危機感についての意見が多く出されました。最後に、分科会の代表者から、まとめの発表がされました。

総評の中で印象的だったのは、「団があつての日本連盟であり、日本連盟があつて団が成り立つ。このことを双方で真剣に考え、自分の事柄として取り組んでいかなければならない」という、当然といえば当然の認識を持つ、ということです。

もう1つは、全国の各団で1～2名のスカウトを増やすことにより、スカウト数減少に歯止めをかけることができる、との推計の説明です。

今回、初めて全国規模の会議に参加し、各県連担当者の悩みと現状を聴くことができました。組織拡張副委員長としての自分の行動について猛省しているところです。

このセミナーのまとめ等については日本連盟発行の「スカウティング」に掲載予定となりますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

日本ボーカリスト宮城県連盟 役員名簿

平成十七年十二月四日付

宮城県連盟 団委員・団委員長懇話会報告

東部地区副コミッショナー 鈴木美恵子

さる2月5日（日）、塩釜市公民館を会場として、県連主催の「団委員・団委員長懇話会」が開催されました。

今回は、宮城県連盟から80人以上、山形県連盟からも2人の参加がありました。

その中で、「みんな頑張ろうよ！」というテーマで、静岡県連盟の鈴木節子氏より基調講演をいただきました。



講演は、スカウティングが楽しいから続いている、という話から始まり、スカウト運動を愛し、スカウト運動を楽しむことがこの運動の心の原点であり、幸せは人ととの心のふれあいにあるということ、スカウトの募集は実際に子どもを入れ

れているお母さん方の生の声のPRが一番効果的であり、団を運営していく上で女性の活用がキーポイントとなる。



団委員長としての役割の1つは、地域の方とのつながりを作ること、そしてボーイスカウト運動について理解してもらうことである。

とにかく、この運動に参加している人なら、他人の批判などする前に自ら率先して動きなさい。この言葉がとても印象的でした。

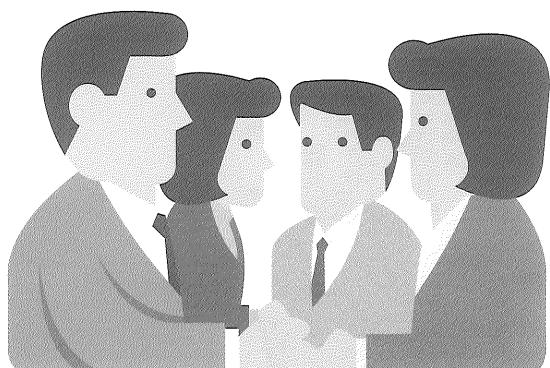
参加者一人ひとりが今回学んだことを団の活性化にぜひ活かしていただきたいと思います。

新事務局長に大山氏、新コミッショナーには千葉氏

平成17年12月4日開催の第6回理事会において、新事務局長に大山英典氏の就任が満場一致で承認されました。

大山氏は、昭和58年から12年間県連副コミッショナー、また平成7年から10年間県コミッショナーとして、通算22年間リーダーの教育、指導に尽力されてこられました。

県コミッショナーとしての任期は平成18年12月31日迄であり、任期途中ではありますが、北海道・東北ブロック選出の日本連盟中央審議会議員の任期も満了し、日連及び北海道・東北ブロック並びに県連の運営にも精通しているためです。



なお、昭和57年から理事、副理事長と兼務で事務局長を務めてこられた大久保孝氏は副理事長専任となります。

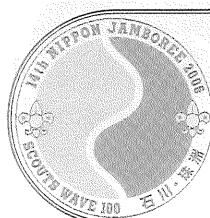
また、県コミッショナーには千葉義博氏の就任が承認されました。

第14回 日本ジャンボリーの概要について

14NJ特別委員会委員長 横沢 繁

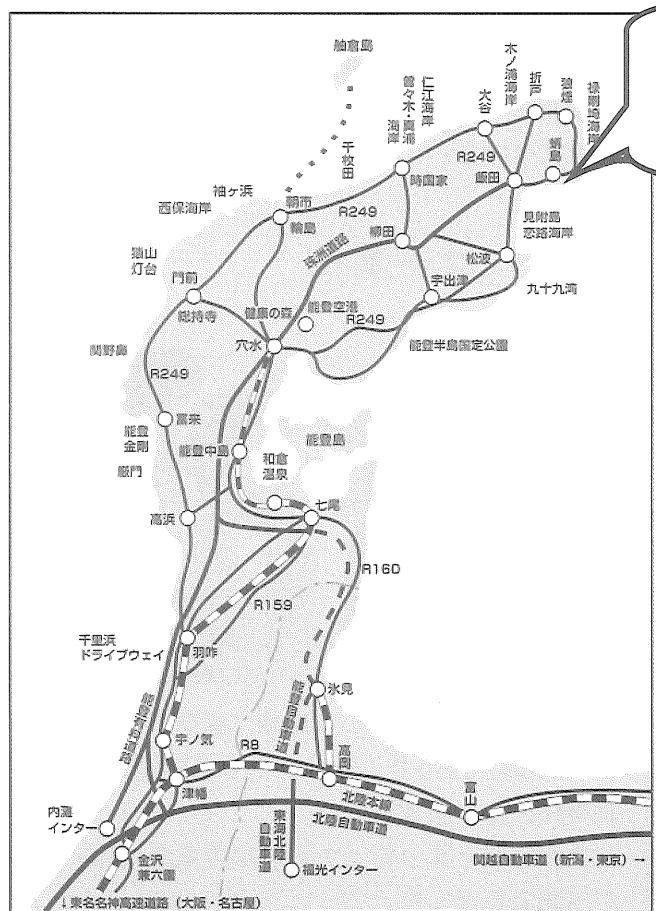
第14回日本ジャンボリー(14N J)宮城県連盟の派遣計画の概要について、お知らせします。

- ・**参加隊** 5個隊（1個隊40人編成）200人
仙南・仙台地区3個隊、東部地区1個隊、石巻・県北地区1個隊
 - ・**奉仕隊** ベンチャースカウト15人（仙南2人、仙台7人、東部3人、石巻2人、県北1人）
指導者 1人（泉1団：高山雅光）
 - ・**人員輸送方法** 交通手段 大型貸切バス 6台
行程（予定）往路 8月2日（水）20時頃 各地区出発
東北道・磐越道・北陸道経由で8月3日（木）9時頃 会場着
帰路 8月8日（火）9時 会場出発
北陸道・磐越道・東北道経由 22時頃 各地区着
 - ・**資材輸送方法** 輸送手段 JR 5tコンテナー2台（各参加隊毎に県連規定の木箱を使用）



第14回日本ジャンボリー
2006年8月3日(木)~7日(月)
石川県珠洲市・りふれっしゅ村 銚ヶ崎
テーマ 風の不思議を突っ走れ!
-Scouts Wave 100-

14NJは、日本連盟ホームページでチェック!
<http://www.scout.or.jp/14nji/index.html>



会場：りふれっしゅ村 鉢ヶ崎

(石川県珠洲市)

派遣団シンボルマーク 募集！

- 1. 募集内容
 - (1) 14NJのみでなく、各種大会等で毎回使用できるもの
 - (2) ネッカチーフおよび帽子の色・デザインも含む（ネッカチーフの模様等）
 - (3) 宮城県連盟のシンボルマークに代用できるもの
 - 2. 応募締切 平成18年3月31日
 - 3. その他 採用者には記念品数組を贈呈します

★皆さんのご応募お待ちしています！★

SCOUT 地区活動

仙台地区 団委員懇話会を開催

平成17年度の仙台地区团委員懇話会を昨年11月12日（土）、末日聖徒イエス・キリスト教会上杉ワードで開催し、9個団から32名が参加しました。

最初に猪股洋文氏による「PA（プロジェクト・アドベンチャー）について」と題した講演を行いました。

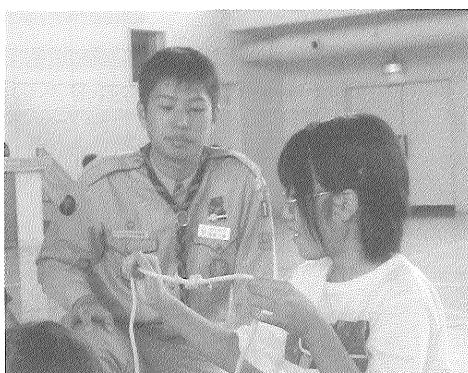


※「PA（プロジェクト・アドベンチャー）」

アメリカの非営利団体 Project Adventure, Inc. が考案した、自然を活用し、参加者の「気づき」を重視した教育研修プログラム。

★詳しくは…株式会社プロジェクト・アドベンチャー・ジャパンのHP → <http://www.pajapan.com/index.html>

県北地区「地区交流事業」を実施



昨年の10月30日、県北地区所属スカウトとそれ以外の子どもたちとの交流を目的に、「地域交流事業」を鳴子小学校体育館において開催しました。前年も鳴子町で行いましたが、地域の子どもたちの参加が少なく、どうしたら集まるか地区コミッショナー部門とプログラム委員会とで検討し、今回はスポーツ少年団に参加を要請しました。

当日は鳴子町のスポ少（ミニバス）の子どもたち

仙台地区総務委員長 菅原誠一郎

その後、「ステップアップ100について」をテーマにグループディスカッションを行い、その中で17年度登録においてHOP賞を達成した仙台第28団今野团委員長、名取第1団高橋ボイド隊長から取り組み状況について報告がありました。

参加者からは、「（PAは、）実体験など正に体で覚えさせる新しい研修方法に感心すると共にこれから教育のあり方として勉強になった。指導の再認識に努めたい」、「講演が非常に良かった。目的、教育方法等が明確であり、指導者としてプログラムを考える時、子どもたちを指導する時のヒントとして有効に使えると思う」などの感想が寄せられ、今後の活動の参考となる大変有意義な時間となりました。

県北地区副コミッショナー 浅野浩信

11人、ビーバー・カブ・ボーイ隊のスカウト等77人、総勢86人の参加となりました。

まず、ミニバスとスカウトの混合チームを作り、自己紹介の後、巨大ボールを使ってのゲーム（キンボール）。次に、ロープワークを使ったリレーを行い、交流しました。

各チームのボーイ隊スカウトが一生懸命教えてくれたので、ミニバスのみんなも興味をもってロープワークを練習し、全チーム見事に完走することができました。

昼食は校庭にて、保護者とリーダーが準備した豚汁と持参のおにぎりを、みんなで話をしながら食べました。

今回参加してくれた11人の中に「ボーイスカウトもおもしろいな～」と思ってくれた人がいれば、開催した意義があったと思います。

石巻地区ボーイ隊合同スノーキャンプ実施報告

石巻第1団ボーイ隊隊長 本田秀之



1月28日、29日、くりこま高原自然学校を会場として、「ホワイトアウトの世界ー雪と触れ合おう」をテーマとして合同スノーキャンプを行いました。石巻地区4個団のG.B.がプログラムの立案、運営をし、スカウトはもちろん、リーダー達も楽しく交流を深める事が出来ました。

1日目は、吹雪のなかでのイグルー作り、自然の厳しさを思い知らされ、又ハプニングもあったが、2棟完成!!!! 上棟祝いとばかり、イグルーの中でおしるこをいただき、みんな満足満足?



夜のプログラムでは竹筒キャンドルでの營火。優しい光に包まれ、幻想的でした。

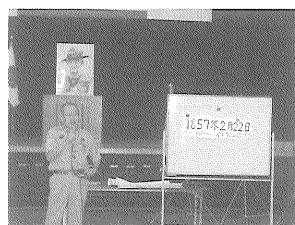
2日目は、前日とは一変、晴天の下での、燐製作りと雪合戦。雪合戦では、日本雪合戦ルールの石巻版までが登場し、大盛り上がりしました。

今回の合同キャンプを介し、石巻地区のボーイ隊の連携を深めることができたと確信し、携わった、くりこま高原自然学校の方々、又各リーダー保護者の皆様へ感謝致します。



ボーイスカウト創始100周年記念・石巻地区B-P祭を開催!

石巻第6団ボーイ隊保護者会会長 蟻坂 隆

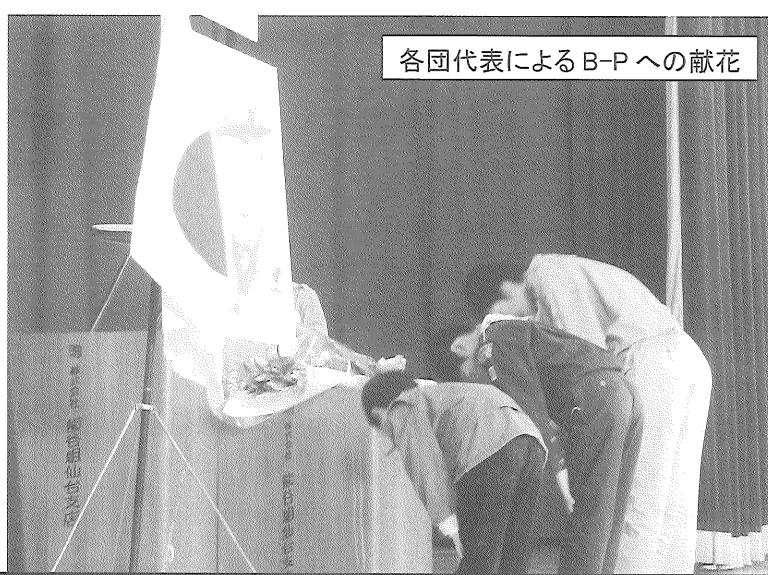


2月19日(日)、石巻地区B-P祭が140人のスカウト、保護者、リーダーの参加を得て行われました。B-Pの

紙芝居あり、全員参加のゲームありで団を超えた交流による新しい仲間づくりと保護者・リーダーとのふれあいで楽しい一日を過ごすことができました。



保護者のみなさん手作りのトン汁



各団代表によるB-Pへの献花



訃報

ボーイスカウト石巻地区協議会長の遠藤功氏が1月29日逝去されました。

昭和39年12月初期登録、当時の宮城第412団団委員長（現石巻第1団）、団委員長、石巻地区委員長、石巻地区協議会長、県連盟地区代表理事、名誉会議議員、宮城県連盟維持財団評議委員等を歴任。42年間にわたりスカウト運動発展に尽力されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

SCOUT いきいき団活動

仙台第12団発団35周年記念式典を開催

仙台第12団団委員 鶩尾泰男



ボーイスカウト仙台第12団は、昭和47年3月、沼崎義夫育成会長と郷家団委員長のもとに創立し、このたび発団35周年を記念して平成17年11月6日に記念式典をハーネル仙台にて行いました。

式典には、千田宮城県連盟理事長、ガールスカウト宮城2、5、8団の方々や団OB及び指導者、保護者等の約100名が参加されました。式典に引き続き開催された祝賀会はボーイ隊が企画・進行を担当し、その中で障害児隊が「ヤングマン」の曲に合わせて元気よく踊りました。また、日常支援をしているインドネシアからの留学生の皆さん約20名が民族楽器の演奏と民族舞踊を披露してくれました。

仙台第12団が発団35周年を迎えたのも、県連、地区、他団のご協力の賜物と感謝申し上げるとともに、今後もご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

寒さに負けず、元気に活動！

古川第1団ビーバー隊副長 守川 誓



古川第1団では、例年ない寒さにも負けないよう、「雪遊び」をする隊集会を2月5日、古川市郊外の公園「化女沼古代の里」近くにある丘陵地にて、ビーバー隊・カブ隊合同で実施しました。

当日は、前日までの降雪がウソのような晴天で、積雪状況も良好でした。

集合後、雪が膝まで積もった遊歩道を歩いて丘の上まで移動しました。道なき道を進み、目的地に到着。「雪遊び」として、斜面をソリで滑って遊びました。

ソリを使わず、体ごと転がって斜面を降りるスカウトもいて、指導者も含めて大はしゃぎでした。

最後に、スープを飲んで、冷えたからだを温めました。

季節柄、室内での活動が多くなってしまう傾向がありますが、野外での活動ができるだけ多くしていきたいと考えています。



どんと祭・裸参りに参加！

仙台第1団カブ隊副長 山田浩幸



1月14日のどんと祭に、仙台第1団は今年もベンチャー・ローバースカウトが企画して7回目の裸参りに参加しました。

夕方の5時過ぎ、団本部をベンチャーチーム・ローバーチームスカウト12名と、カブ隊・ボーイズのリーダー4名が制服で同行、大崎八幡宮に向けて出発しました。

しかし無情にも冷たい雨。定禅寺通りを過ぎたころには、すっかり身体が冷え切ってしまいました。この時期の雨は雪よりも冷たく、足袋もぐつしょり。

しかし、我々の提灯や制服を見て「ボイスカウトだ！がんばれ！！」と声をかけてくださる方がおられ、大変元気づけられました。

大崎八幡宮に着いたときにはびしょぬれで、指先の感覚もなくなっていましたが、御神火が身体も心も温めてくれました。

神前でボイスカウトの繁栄と健康を祈願したあと団の集会所・中山ホールに集まり、温かい豚汁を食べながら、また来年も参加することを誓い合いました。

編集後記

出来得もない事をやろうとする笑止千万、まさに“棹持打月”の様相。

第9号は中枢にも病気不快の方々ありとか、編集子にも今流行の風邪や同傾向の中、夜分の会議再々。

互いに身を案じられたきこと、まもなくの元気の春に望み。

今回表紙ほか一部を本格印刷に、何せ村井知事表敬写真等について失礼の段ありては、と。

前号から各団5～10部増配は指導者方々からそれぞれ関係機関、関係者へ意を込めてお手渡しくだされたり。

スカウト写真コンテスト募集期間外含めて5点、意欲的の1点を日本連盟スカウティング誌に。

送稿作品展示発表は県連年次総会時を予定。

(堀)



■ 発行 日本ボイスカウト宮城県連盟
■ 編集 宮城県連盟広報委員会
〒981-0915
仙台市青葉区通町1-6-9
宮城県通町分庁舎内
TEL/FAX 022-234-2359
■ 一部印刷 株式会社小野寺印刷所